



妊婦さん 乳幼児子育て向け！災害時
ママ・パパの心構えセミナー 報告書

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/16404

妊婦さん 乳幼児子育て向け！ 災害時 ママ・パパの心構えセミナー 報告書



大切な命を守るために、できることは何か？
一緒に考えてみませんか？

【発行元】

生活協同組合 おおさかパルコープ大阪北地域活動委員会

 社会福祉法人 大阪市北区社会福祉協議会

【協力】

一般社団法人 大阪府助産師会


災害から守れる命を増やすために今できること

東日本大震災後、災害時における要援護者の対応等課題が表面化され、避難所において女性が抱える問題も課題となりました。しかし、妊婦さんや乳幼児を子育てしているママやパパを要援護者と位置づける動きには時間がかかっている現実があります。

「生活協同組合 おおさかパルコープ大阪北地域活動委員会」と「大阪市北区社会福祉協議会」では、この課題に取り組むべく、妊婦さん、乳幼児の子育て中のママ・パパを対象に、災害時のみならず、平常時においても有事のときのために、家庭や地域で何を大切にし、何に取り組むことが望まれるのかを考える機会。また、女性や子育て中のママ・パパコミュニティの拡がりを防災を切り口に、学習や体験から、女性たちも自ら、声を上げ、啓発・防止活動を進めることが重要であるとの思いで、「妊婦さん、乳幼児の子育て中のママ・パパ」を対象に、「災害時、自分自身と子どもたちの命を守るために出来ることは何か？」を一緒に考える」セミナーを開催しました。

生活協同組合おおさかパルコープ大阪北地域活動委員会
社会福祉法人 大阪市北区社会福祉協議会





災害



大阪府北部地震 (2018)

大阪府北部で起こった最大震度6弱の地震。高槻市ではブロック塀が倒壊し幼い命が奪われ、各地で安全性の見直しがおこなわれました。



西日本豪雨 (2018)

台風と梅雨前線の影響で西日本を中心に広範囲で河川の氾濫や洪水、土砂災害などの被害が発生しました。



熊本地震 (2016)

熊本県や大分県で相次いだ最大震度7の地震。文化財への被害も各地で多発、石垣が崩れた熊本城の様子は地震被害の甚大さを物語りました。

「想定外」が歴史を塗り替える、大阪も例外ではありません。



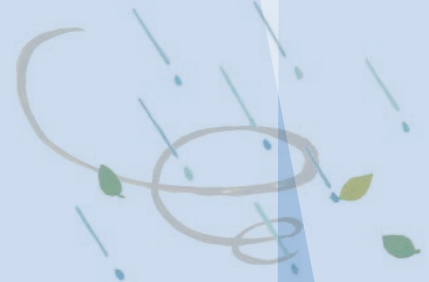
東日本大震災 (2011)

観測史上最大の地震により津波が引き起こされ、原子力発電所事故にも発展、今もお復興の長い道のりの途中です。



阪神・淡路大震災 (1995)

兵庫県南部で発生し、近畿圏の広域が大きな被害を受けました。震源近くの神戸市の都心では多くのビルが倒壊しただけでなく、停電復帰時に起こる通電火災が多発、延焼によって被害が拡大しました。



災害時 ママ・パパの心構えセミナー 当日のようす

平成30年7月・11月、平成31年2月の計3回開催した「災害時 ママ・パパの心構えセミナー」の開講内容や熱気あふれる会場の様子などをレポートします。

第一回



会場：中三会館
(北区大淀中)

日時：平成30年7月26日(木)
10時~12時30分
参加人数：20名

第二回



会場：滝川公園地域集会所
(北区天満)

日時：平成30年11月28日(水)
10時~12時30分
参加人数：20名

第三回



会場：北区民センター
(北区扇町)

日時：平成31年2月16日(土)
10時~12時15分
参加人数：24名

第1部・レクチャーの時間

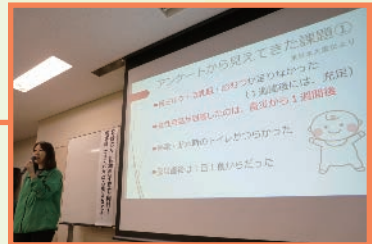
災害時、妊婦さんや子育てママ・パパが困ること・出来ることなど、全国の災害時の事例をまじえてお話ししました。



①災害時、どうやってお子さんを守るかの方法や基本的な情報をお伝えしました。



②大きな災害を経るごとに知恵が積み重なり、進化してきた避難所の様子を写真資料で展示しました。



③全国の被災地支援で得たりリアルな女性の声を伝え、災害時の具体的なアドバイスをしました。

第2部・ワークショップの時間

実際に災害が起きたらどうする!?をテーマに、避難グッズ準備のワークショップや意見交換等をおこないました。



⑥講師をまじえてフィードバックの時間。たくさんの質問も飛び交い、意識の高さが垣間見えました。



⑤集めた防災備品を広げて意見交換。マンションや戸建てなど住まい方による違いも見えてきました。



④並べられた沢山の品目から優先順位を考えながらバッグに防災備品を詰めるワークの様子。



⑦チームごとにまとめて発表の時間。情報の共有が何より大切であることを体感していただきました。



⑧ワークショップ終了後はダンボール製家具などを体験、機能や性能を体感していただきました。



災害時 ママ・パパの心構えセミナー アンケート集計

(第一回～第三回合計・参加者合計 64 名・有効回答人数 58 名)

Q1. あなたの年齢をお聞かせください。

20 代以下	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	無回答
1 名	4 名	34 名	14 名	0 名	4 名	1 名
1.7%	6.9%	58.6%	24.1%	0%	6.9%	1.7%

Q2. 第 1 部「災害についてのお話」はいかがでしたか？

大変良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
38 名	16 名	1 名	0 名	0 名	3 名
65.5%	27.6%	1.7%	0%	0%	5.2%

Q3. 第 2 部「実際に災害が起きたらどうする?! ワークショップ」はいかがでしたか？

大変良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった	無回答
36 名	15 名	0 名	0 名	0 名	7 名
62.0%	25.9%	0%	0%	0%	12.1%

Q4. この講座を通じて感じたこと、実践したいことはなんですか？

ママ友をつくる	自分から発信する	地域活動に参加する	家族で話し合う	備蓄をする	家で試してみる
19 名	11 名	24 名	46 名	44 名	22 名
32.8%	19.0%	41.4%	79.3%	75.9%	38.0%

Q5. 今後このようなセミナーを開催する際のご希望をお聞かせください

【曜日】			【時間帯】			
平日	土曜	日曜・祝日	午前	午後	夕方	夜
33 名	32 名	17 名	54 名	14 名	2 名	0 名
56.9%	55.2%	29.3%	93.1%	24.1%	3.4%	0%

Q6. 今回のセミナーのご意見・ご感想を是非お聞かせください

○妊婦さんのため、母のための防災というのが良かったです ○乳児のための遊べるスペースがあれば良かったと思う ○先輩ママさんのリアルな声を聞くことができよかったです ○具体的に準備用品などを選ぶワークショップは良かった ○現地に行かれた方のお話がとてもためになりました ○やらねばと思わず、行動に移すきっかけになりました etc...

Q7. 今後、セミナーを開催する場合、お聞きになりたい内容などはございますか？

○子育てにおける救急時の対応について ○各居住エリアの避難ルートの話など ○災害時に役立つ“工夫”を教えてください ○子どもと一緒に避難する事、心理的な事など心のケアについて ○月齢、年齢ごとに用意しておく良い物があれば ○男性も自分事として考えられるようなセミナーを考えていただけたら ○子どもの食について etc...



田間 泰子

大阪府立大学 教授
家族社会学

災害時にお母さんと赤ちゃんの命が守られなければ、私たちの社会に未来はありません。また災害が起これば、妊産婦さんや出産後のお母さん、赤ちゃんには、高齢者や障がいをもつ方々と違う備えや配慮が必要です。しかし、妊産婦さんや小さなお子さんをもつお母さんたちが、地域の防災の取組みに参加していただくことが難しいです。このセミナーは、その難しさを乗り越えて、(1) 災害のことを考えながら地域のつながりを作ること、(2) 平時の生活のなかで「できること」を見つけること、これらによって災害に対する力を身につけることを目的にしました。

そのために工夫をしました。まず自分の備えの状態をチェックすることです。セミナー終了後にそのチェックリストを持ち帰り、何ができていないか、すべきかなどを家族と再確認してゆくことができます。3回のセミナーに共通して、災害・避難情報の探し方や避難経路、家族との連絡の取り決めなど地域に関わる情報の遅れが課題として目立ちました。

次に、「すること」宣言の葉書です。グループワークで「私は〇〇をします」と宣言し、葉書に記載し、後日に結果を私たちに返信していただきます。人前で宣言することで「しよう」という動機付けができ、後日に葉書を投函することは、セミナーを一過性のものにならないためです（その結果については4頁参照）。

これらは、人々の「できる感」、主体的な判断力や行動力を引き出す工夫で、「エンパワメント」につながります。エンパワメントは災害時にも平時にも、人を助け、人に助けを求める力となります。これまでの災害では、妊婦さんは「恥ずかしい」と思い、また小さなお子さんをもつ方は周囲に遠慮して、助けを求められないことが多数ありました。このセミナーでは、グループワークで顔見知りになり、名刺やアドレスを交換する光景が見られ、家族や友だちと、またお勤めの方は会社でも話し合うと言っておられました。セミナーをきっかけに、つながる力を実感していただけたと思います。災害は多様なかたちで起こるので、人々が柔軟かつしっかりとつながる力が肝要です。

このセミナーは防災教育の入口です。今後、このような導入プログラムを重ねるとともに、参加なさった方々がさらに防災知識を学んでくださる機会をつくる必要があります。



社会福祉法人 大阪市北区社会福祉協議会

大阪市北区社会福祉協議会では、要援護者に配慮した地域の防災訓練やマンションコミュニティに配慮した防災講座など、一人ひとりの“命を守る”ために出来ることを目的とした防災に取り組んできました。東日本大震災や西日本豪雨で甚大な被害があった岡山市での災害ボランティアセンター支援などを通じて、見て体験したことを大阪市北区の住民の皆さんにお伝えし、大切な命を守るために“他人事”ではなく“我が事”として考え、災害時だけでなく、子育て・介護など様々な場面で「助けて」と声を出し「生き抜く力」をつけていただきたいと思います。今後も“我が事”と思える取り組みを進めていきます。



西尾 歩

保健指導部会長・大阪市北区班長
あゆみ母乳子育て相談室開業



小路 三千代

災害対策委員長

一般社団法人 大阪府助産師会

阪神淡路大震災・東日本大震災の妊婦や子どもに対する支援の手薄さや虐げられた様子や、その教訓から得られた妊婦や子どもへの配慮されるべき必要な支援がよく分かりました。

また、助産師が災害時の出産や子どもに関する話をする事で、本会の活動を知っていただき妊婦さんたちは安心感が得られたのではと思いました。

グループワークでは、会場に準備された沢山の防災品の中から有事に備えて必要な物品を参加者各自が取り揃えて意見交換し防災時を実感でき効果的だったと思います。

セミナー参加の妊婦さんたちは防災意識や災害時の実践力が高まったと考えます。

このような地域出張型セミナーは有意義であり、次年度も是非開催をお願いしたいです。



生活協同組合 おおさかパルコープ大阪北地域活動委員会

いつ、どこで遭遇するか分からない「災害」、その不安を少しでも解消したいとの思いで開催しました。

なかなか地域の防災訓練などに参加が難しい赤ちゃん連れのママ・パパが対象です。特に講師の先生方には女性目線からのお話をお願いしました。

今回、「大阪市北区社会福祉協議会」と共同開催することで、多大な力をお借りでき実現することができました。本当に感謝です。これからも一緒に住みよい地域づくりができればと思っています。

謝 辞

本講座開催にあたり、大阪府助産師会をはじめ、大淀東地域社会福祉協議会ならびに大淀東地域の方々、滝川地域社会福祉協議会、北区役所地域課・福祉課の皆様方の多大なるご協力のもと、実りのある講座となりましたこと、深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。日頃から有事に備えるための情報として、この冊子を是非お役立てくださいませ。



* 本事業は Co-op 共済地域ささえあい助成を受けています *